

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	墓石
Author(s)	上野, 裕久
Citation	龍南, 245 : 99 - 99
Issue date	1939-12-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/8372
Right	

墓 石

上 野 裕 久

下しらべ終へて仰ぎし雨空はうすくれなるに街の灯に映ゆ
一時間もバスを待つ間に暮れはてし夕焼空に歌ごころ湧く
月日のみただ速かに經ちゆけり黒き墓石にはや苔のむす

夕されば温泉宿のひぐらしのころの鼓膜振動さする(霧島山にて四首)
やはらかに朝日のさせるしじまなり簞をわたる水の音のみ

降りつゞき今日も暮れたり前栽の鯉のしきりに銀鱗を見す

土用照り庭に乾したる梅干を染めゐる山の娘の手もあかし

親にはまだ病めりと告げずと友の眼をかすめし影のかなしまるも

葡萄酒よ菓子よ酒よと親や妻の今はのきはに兵にすすめをり(出征)

流星のごと火花はきえぬうすぐらきおばしまにより大氣を吸ふも

入試をば前にひかへて此頃のわが張りあるをひそかに恐る

無理すればまた健康を害はむゆふべの空を見つつ思へり